

学術の信頼性を 損なう粗悪雑誌 問題

野上 識 (東京大学大学院理学系研究科シニアURA)
武田 洋幸 (日本学術会議第二部幹事、
東京大学大学院理学系研究科長・理学部長)

粗悪雑誌 (PREDATORY JOURNAL) とは

掲載手数料 (APC) 目当ての悪質性の高い出版社が刊行するOpen Access雑誌*
ハゲタカジャーナル、粗悪学術誌、偽学術誌、悪徳雑誌、捕食ジャーナル、フェイクジャーナルとも

- 迅速な出版を標榜
- しつこい投稿勧誘メール、編集委員の勧誘メール
- 疑わしい査読プロセス (短期間での受理、短いコメント)
- 著名誌と似たor同じタイトル
- 偽のImpact Factorの表示
- 不透明なAPC請求 (受理後に金額通知)
- まともな出版社を買収

*購読料を払うことなく、誰でも無料で閲覧・ダウンロードできるタイプの論文雑誌。出版に必要なお金 (APC, article processing charge) を論文著者が払うビジネスモデルが多い。

背景にあるもの

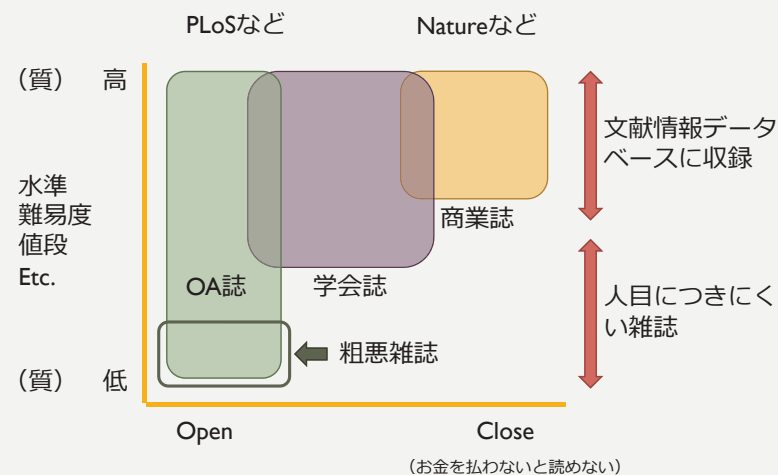
運営サイド

- Open Accessによる出版コストの低下
 - Webサーバとページレイアウトソフトで運営可能

投稿サイド

- 成果の公開圧力
- 内容でなく数で評価する風潮

各種雑誌の立ち位置 (模式図)



なぜ問題か

*学術雑誌の4機能
1) 登録 (先取権)
2) 評価 (質保証)
3) 報知 (流通)
4) 保存 (アーカイブ)
(Roosendaal et al., 2001)

- 学術雑誌としての機能*を満たしていない
 - いい加減な査読：質保証 ×
 - 二重投稿をチェックできない：登録性、質保証 ×
 - サイトが閉鎖されたら読めない：保存性、報知性 ×
 - 文献情報データベースに収録されない：報知性 ×
- 倫理的問題
 - 公的資金が騙し取られる事態
 - 科学的に正しくない主張の流布
 - 論文業績による人事評価への悪影響
 - 研究者・研究機関の信用低下
- **学術への信頼低下**

必ずしも悪徳雑誌に限った話ではない

報道例 (2018.9.3)

毎日新聞

- 質が十分に保証されていない粗悪な「ハゲタカジャーナル」が増えている
- とある評判の悪い出版社から出ている雑誌 (200誌超) に掲載されている論文約8万報のうち、5000報が日本と関係
- 筆頭著者が東大所属の論文が132本
- (当時) 「現時点で対策を考えていない (東大)」

調査の問題点、限界

- 調べられるのはごく一部
- 氷山の一角
 - 一説には1000社以上あるとも言われている
 - 一社当たりの発行雑誌数が多い 例 ○○社 200誌 } 数万誌以上?
 - 網羅的に調べ上げることや、新たに掲載されていないか監視し続けるのは困難
- たまたま当該出版社の検索機能が充実 (良心的?)
していて調べやすかった 200誌以上、8万報を横断検索できた

調査で分かってきたこと

- 研究者ウェブサイトで業績として掲載している場合もある (意図的か、気づいていないかは不明)
- 留学生、外国人ポストドクが帰国後に出した論文に共著者として入っている場合もある (全てが悪意ではないにしても)
 - 人事の審査書類の業績リストに紛れて入っている場合もあり得る
- 気づくのが困難 (Web of Scienceなどの書誌データベースに登録されておらず、引用のリンクや検索では見つからない)
- 同一出版社でも質の高い雑誌と低い雑誌が混ざっている
 - 例：××社 65誌を発行
 - A誌 (IF: 3.9)
 - B誌 (IFなし)

受理される割合が非常に高い雑誌があり、不受理ににくい査読システムが稼働していると報じられている

受理率が高くても、良い論文が投稿され、コミュニティから認知されていれればIFは高くなる

必ずしもpredatory journalに限った話ではない

粗悪学術集会というのも

参加料目当ての悪質性の高い運営者が主催する学会
ハゲタカカンファレンス、偽カンファレンス、フェイクカンファレンスとも

主な特徴

- 幅広い対象領域、複数の学会の同時開催
- しつこい投稿勧誘メール、招待講演の勧誘メール
- 運営主体、連絡先、会場が不明確、開催自体が疑わしいものも
- 著名学会と似たor同じタイトル
- 著名研究者の名前を講演者として無断で使う例も
- 高額な参加料請求

参加者側のニーズ

- 業績稼ぎ
- 予算消化
- 発表せずに観光

研究者がどのようにすれば避けられるか

• ホワイトリストの活用

- DOAJ (Directory of Open Access Journals)
- COPE (Committee on Publication Ethics)
- OASPA (Open Access Scholarly Publishers Association)

• ブラックリストの活用

Beall's list of predatory publishers & journals

• リテラシー向上

“Think, check, submit” (チェックリスト) の活用

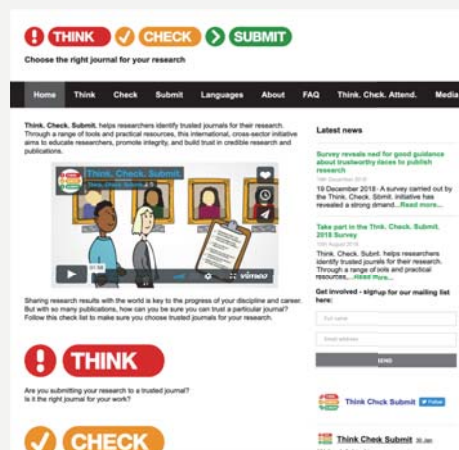
どちらも万能ではない

“THINK, CHECK, SUBMIT”

研究成果を論文として公開する際に、出版媒体について気をつけるべき
チェックリスト

(例)

- あなたや同僚は、そのジャーナルについて知っていますか。
- そのジャーナルに投稿された論文を、以前読んだことはありますか。
- そのジャーナルでは最新の論文を容易に見つけることができますか。
- その出版社の連絡先はすぐに分かりますか。
- そのジャーナルのウェブサイトには、出版社名が明記されていますか。
- 出版社とは、電話、メールや郵便で連絡が取れますか。
- ...etc.



<https://thinkchecksubmit.org>

日本語版もあり

学術界の姿勢はどうあるべきか

学術的な発見・成果の公開

